

「井之川中学校の諸田鍬踊り伝承活動の取組」

1 学校名

徳之島町立井之川中学校

2 学年・人数

1年から3年（計30人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年9月28日（火）から10月25日（月）まで
総合的な学習の時間及び昼休み（自主的活動）
井之川中学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和3年10月29日（金） 井之川中学校文化祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

諸田鍬踊り（しょだくわおどり）

(2) 由来

由来は、はっきり分らないが、大正時代の末期から昭和の初期に家畜商人がある集落で習って、諸田の青年団に教え広め、行事等で踊るようになり諸田集落に定着した。また、歌の内容は「村の興廃は農業にかかっているの、農村青年の力で集落や徳之島、ひいては日本を元気に発展させること、心の深さは成功の源、今日のお祝いを記念として骨身惜しまずお国の為に尽くしましょう」と結んである。

(3) 構成等

男性と女性に分かれて2列の円を作って踊る。男性が外側、女性が内側で、進行方向は逆となる。両手に持った鍬とカマを合わせたり、男性と女性の鍬を打ち合わせたりして音を鳴らす。円の中央では島太鼓チヂンを打つ。曲調はゆっくりから、だんだんと速くなる。

5 保存会や地域との連携の具体

2008年から諸田の有志の皆さんの指導の下、鍬踊りを井之川校区の郷土芸能の継承を目的とし、文化祭（学習発表会）で生徒と職員が踊っている。諸田には保存会は存在していないが、鍬・カマ・衣装・チヂン・音楽CD等は区長が持ち回って保存している。

本年度は9月29日と10月18日の2回、地域の有志の皆さんが来校し、生徒・職員への踊りの指導をされた。今後の地域での継承については、検討中のようだ。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間において、郷土伝統を体験・表現する学習を設定した。目的は、郷土に伝わる踊りについて、地域の方等から学び、自ら踊って体験的

に表現することで、伝統を守り、継承することの大切さについて考えることができるようになることである

また、地域の方々の指導の下、全学年で練習を行い、3年生が下級生の手本となるような場を設定した。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【諸田の有志の皆さんによる指導の様子】



【文化祭で発表する様子】

8 参加生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒】

昼休みを中心に何度も練習して、しっかりと踊ることができたので、とても楽しかった。また、地域の皆さんが喜んでくれるから嬉しい。

【保護者】

全て本当に全力で学習・練習した事が伝わってきて感動しました。

【諸田の皆さん】

今後も島人の人材活用をしていただきたい。ご縁を大切にしながら、生徒の皆さんの成長を応援しています。

【教職員】

諸田の有志の皆さんも鉾踊りをどのように継承していくべきか悩まれていた。今できることは、隔年ではあっても、本校の生徒・職員が踊りつなげていくことだろう。また、文化祭だけでなくその他の場所でも披露できるとよいと思った。